



イーサー(イエス)

(彼に平安あれ)

クルアーンのなかで

他の物語

磔にされたわけではなく、天に召し上げられた:

イーサーは殺害されておらず、磔にされたわけでもなく、アッラーは彼を天に召し上げたのだとクルアーンは指摘しています。イーサーの敵たちが彼を殺害しようとした時、アッラーはイーサーではない別の人物を彼に似させたことで、敵対者たちはその人物をイーサーと思い込み、殺害し十字架に磔にしました。一方、イーサーは生きた状態のまま既に天に召し上げられていたことはクルアーンが断定する通りです。



「また彼らの、「本当に私たちはマルヤムの子息マスィーフ・イーサー、アッラーの使徒を殺したぞ」という言葉ゆえに(われらは彼らを呪ったのだ)。彼らは、彼を殺してもいなければ、磔の刑にもしていない。だが、彼らには似通って見えたのだ。本当に、彼について意見を異にした者たちは、まさしくそこにおいて疑念の中にあっただ。彼らはそのことについて僅かばかりの知識もなく、ただ憶測に従っていたに過ぎない。そして彼らは、確信をもって彼を殺したわけではなかったのだ。いや、アッラーは彼(イーサー)をかれの御許に(魂と肉体と共に)お召しになったのである。アッラーはもとより偉力ならびないお方、英知あふれるお方。」

(婦人章157-158節)

